

再評価結果(平成19年度事業継続箇所)

担当課: 道路局国道・防災課
担当課長名: 木村 昌司

事業名	一般国道21号 岐大バイパス	事業区分	一般二次	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自: 岐阜県岐阜市東中島 <small>ぎふけんぎふしひがしなかしま</small>	至: 岐阜県大垣市長松町 <small>ぎふけんおおがきしながまつちよう</small>	延長	23.9km	
事業概要	<p>一般国道21号は、岐阜県瑞浪市を起点とし滋賀県米原市に至る全長102kmの幹線道路であり、岐阜県を含む東海圏域と滋賀県を含む関西圏域の交流・連携や産業・経済を支えるなど重要な役割を果たしています。</p> <p>岐大バイパスは、岐阜市・大垣市をはじめとする岐阜県南部地域における交通量の増大に対応することを目的とした延長23.9kmの道路です。</p>				
S35年度事業化	S36年度都市計画決定	S35年度用地着手	S35年度工事着手		
全体事業費	約1100億円 事業進捗率		約60%	供用済延長	23.9km
計画交通量	95,600台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 5.7 (事業) 10.1	総費用 (事業/事業全体) 487/1245 億円 (事業費: 439/1169億円 維持管理費: 49/ 77億円)	総便益 (事業/事業全体) 4,928/7,079億円 (走行時間短縮便益: 4921/7060億円 走行費用減少便益: 2/ 18億円 交通事故減少便益: 5/ 1億円)	基準年 平成18年	
事業の効果等	<p>・渋滞の解消(現道における年間渋滞損失時間の削減) 他15項目に該当。</p>				
関係する地方公共団体等の意見	<p>岐大バイパスは、各務原市・大垣市等の沿線地域の産業集積圏を結ぶ地域連携軸として、十分な機能を発揮することが期待されており、国道21号沿線の各務原市をはじめとする関係8市6町の首長で構成される国道21号・22号及び岐阜県横断ハイウェイ整備促進期成同盟会より早期整備の要望(平成18年4月13日)を受けている。</p>				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<p>・交通量が年々増加し、渋滞ポイントが7箇所存在</p> <p>・沿線都市に県全体の約36%の人口が集中</p> <p>・沿線に物流拠点が多数立地</p>				
事業の進捗状況、残事業の内容等	<p>・岐大バイパスL=23.9kmのうち、8.7kmを6車線、15.2kmを4車線で供用。</p> <p>・事業進捗率は約60%、用地取得率は100%(平成18年度末見込み)。</p>				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	<p>・国道157号～岐阜県庁前交差点間L=4kmの立体化による都市計画変更に向けた調査を推進。</p>				
施設の構造や工法の変更等	<p>・橋梁・擁壁の構造形式の見直しにより、約5億円のコスト縮減を図る。</p> <p>・完成区間も含めて全線暫定供用されている区間の拡幅及び立体化事業であることから、計画の変更は困難。</p>				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	<p>以上の点を勘案し、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。</p>				
事業概要図					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。